



石川 眞 男

## 障害者施設の

## 建てかえ進展具合は

町 「たんぼぼ」については

多機能福祉施設として建設したい

**Q** かねてから要望のあった障害者施設建てかえの進展具合は。

**町長** 「障害者福祉センターたんぼぼ」については、老朽化・耐震性の問題・施設利用者の増加傾向の中で、多機能福祉施設として建設したい。

**Q** 「道の駅」の対応になる「歩いて暮らせる地域」づくりの具体的対応を示せ。

**町長** 地域商業の衰退が進み、高齢者を中心に買い物弱者の問題が深刻になると予想される。例えば、移動販売・宅配サービス・買い物代行・御用聞きサービス・店舗への送迎サービスなど、商工会や町内企業とも連携し支援事業を進めていきたい。

**Q** 「道の駅」の責任ある経営主体はいつごろ決定するか。住民の不安解消のため、説明会等を考えていないか。

**町長** 町として大きな事業なので、経営主体は慎重に決定したい。公募等も含め、建設委員会の中で十分検討したい。今後、住民

に説明する機会も持ちたい。

**町長** そのとおりと考えるが、交付税削減を行政サービスに影響させることはできない。苦渋の選択だが、職員に理解と協力を求めたい。

**町長** 政府による一方的な職員給与引き下げ要請はあらゆる意味で不当と考える

**Q** 政府による一方的な職員給与引き下げ要請はあらゆる意味で不当と考える



障害者福祉センターたんぼぼ

## 災害時に住民を守る防災計画を整えているか



高橋 茂 樹

**Q** 玉村町では、台風や局地的豪雨時の防災計画はどのようになっているか。

**町長** 水防計画に基づき行動する。大雨洪水警報が発令された場合は、関係職員が登庁し、河川の状況確認や樋管・水門の操作を行う。

**Q** 東日本大震災から2年が経過した。当町の地震のときの対応は。

**町長** 震度4以上で、災害警戒本部ないしは対策本部を設置する。初動体制として、被害状況などの情報収集を行い、正しい情報や避難体制を整える。

**Q** 災害時において、保育所・幼稚園・学校ではどのような対応を行うのか。

**町長** 保育所では、毎月1回地震と火災を想定した避難訓練を実施しており、消防署の職員からも訓練内容のチェックを受けている。保育所や学校施設は避難所としての役割も担っており、災害時には機敏に開放できるように体制を整えている。





備前島久仁子

## 消防団第3分団詰所の建てかえは

### 将来を考えた用地取得を

町 地元区長や消防団など関係者と協議して進める

**Q** 老朽化している第3分団詰所の建てかえ要望が、平成23年度の上之手・宇貫・八幡原区長から提出されている。どのような検討をしているか。

**〈町長〉** 3区長から「現在の建物は、耐久性に問題があり、詰所は3エリアの西に偏っている。建てかえは、エリアの中心近くへ」との要望書が出されている。

**Q** 詰所を使うのは消防団員である。

老朽化している詰所の建てかえは、築40年を目安としているため、第3分団詰所については、平成28年度に建てかえを実施する。

消防車が出入りしやすい、団員の駐車場が確保できること。災害時には避難所になり、備蓄品の保管倉庫を置く

することも考え、消防団員が一番使いやすい場所を検討すべきではなく、今後40年以

上使うことを考え、用地を決めてほしい。

**〈町長〉** 十分に話し合っ

**Q** 町は、昭和村と防災協定を結んでいる。どのような支援をするのか。

**〈町長〉** 食料や飲料水などの生活必需品の提供や、職員の派遣、被災者の受け入れを検討している。

今後は、長野県山ノ内町や、友好交流協定締結を予定している茨城県茨城町とも検討していきたい。



建てかえ要望が出されている消防団第3分団



**〈教育長〉** 各学校では、いろいろな場面を想定した避難訓練を、年間を通して行っている。また、前もって子どもに知らせず休み時間中でも行う訓練、緊急時の集団下校訓練、保護者への引き渡し訓練なども実施している。幼稚園でも、毎月1回避難訓練を実施している。

**Q** 町民を対象にした防災訓練計画は。  
**〈町長〉** 住民参加型の訓練や徒歩による避難訓練などを実施するには地区単位で行う訓練が有効であるため、今年度は上陽小学校を会場に、上陽地区の住民を中心に訓練を実施する予定である。



総合防災訓練